

## 一秒でも早い適切な治療と、脳卒中センターの本格的稼働を実現

脳神経病態外科学(脳神経外科) 渡邊英昭 医師



## PROFILE

わたなべひであき◎愛媛大学大学院医学系研究科・脳神経病態外科学講師。1992年愛媛大学医学部卒業、医学博士。脳卒中、脳血管障害を専門に活躍。趣味は旅行。もう一度行きたい場所は、オーロラ観賞ができて、温泉やスキー場があり、魚がおいしいアイランド。

私は脳卒中センターと脳神経外科に所属し、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの急性期脳卒中疾患に対し、脳卒中専門医として外科を中心に診断から治療までの診療を行っています。現在、日本人の死因の第3位になった脳卒中は、健康な人が突然発症して後遺症を残したり、死に至ることもある病気です。急性期脳卒中疾患は1分1秒でも早く、適切な診断、治療を行うことで救命、また社会復帰ができます。その治療は注目されており、最近では外科的治療より内科的治療が増えつつあります。

私のモットーは一人ひとりの患者様にベストを尽くすこと。当センター、また脳神経外科では患者様の症状に合わせたオーダーメイドの治療を行っています。脳卒中治療は患者様の意識がない場合も多く、ご家族や周囲の方にもわかりやすく治療

について説明することも心がけています。

脳卒中治療の一翼を担う脳卒中センターは平成16年度に設けられ、脳神経外科病棟内に脳卒中専門治療病室(Stroke Care Unit: SCU)を新設しました。しかし、センターの本格的な稼働にはまだ至っていません。脳卒中の治療は一刻を争うため、限られた時間でどこまで治療できるかが重要なのですが、それに対応する体制やシステムができていないためです。センターが本格的な働きをするには、越えるべきハードルが多々あります。まずは、24時間態勢で診療、治療に当たるための専門医や看護師など、スタッフを確保することが急務です。

まだ当センター専用の窓口はございませんが、脳卒中や脳血管障害についての相談はいつでも受け付けておりますので、脳神経外科までお気軽にご連絡ください。

## 適切な治療と遺伝子研究で、糖尿病のオーダーメイド医療を目指す

分子遺伝制御内科学(糖尿病内科) 大澤春彦 医師



## PROFILE

おおさわはるひこ◎愛媛大学大学院医学系研究科・分子遺伝制御内科学助教授。1984年千葉大学医学部卒業、医学博士。1997年愛媛大学医学部臨床検査医学(糖尿病内科)助教授、2006年現職。遺伝子検査による糖尿病発症予防とオーダーメイド医療の実現が目標。趣味は洋楽などの音楽鑑賞と読書、時間があれば旅行。

私は糖尿病の専門医として診療をしています。糖尿病患者数は急増しており、その発症予防と進展防止が急務です。糖尿病の恐ろしさは、慢性の高血糖により血管が障害されることです。その三大合併症として網膜症、腎症、神経障害があります。また、糖尿病は動脈硬化の危険因子でもあり、虚血性心疾患、脳梗塞、動脈閉塞などのリスクを高めます。生活習慣病の代表である2型糖尿病は、高血圧、肥満、高脂血症といった他の動脈硬化の危険因子をよく合併します。当科では、経験豊富な糖尿病専門医が診療にあたっています。糖尿病を血管病としてもとらえ、複数の危険因子をコントロールし、合併症の予防と早期治療をめざしています。さらに、当院の循環器科、眼科、神経内科、皮膚科などの専門医とともに総合的に診療をしています。また、看護師、薬

剤師、栄養士などのメディカルとも連携し、患者様の生活の質を改善するよう努めています。インスリン分泌が枯渇する1型糖尿病では、インスリン頻回注射と血糖自己測定による強化インスリン療法を行っています。当科には、インスリン投与量を時間帯毎にプログラムできるポンプが5台あり、必要に応じて外来でも厳格な治療が可能です。

新たな診断・治療法を確立するために、糖尿病の原因遺伝子と発症機構を解明する研究にも力を入れています。最近、2型糖尿病の原因遺伝子の一つを見出しました。インスリン拮抗作用を有するレジスチンというホルモンの血中濃度を決定する遺伝子の一塩基の違い(SNP)です。今後、遺伝子検査により、2型糖尿病の発症予防や個人個人にあった治療法を選択するオーダーメイド医療の確立を目指します。